

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
 II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
 III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
 IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
 V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 II 】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都府立綾部高等学校	全校生徒数	891名
実践学年、部、講座等	第1・2学年 スポーツ総合専攻クラス、第3学年Ⅲ類(体育系)クラス 水泳部、陸上競技部		
目標 (ねらい)	オリピズムの観点(○印) <重複可>	友情 (○) 卓越 () 尊重 (○)	
	本校の施設である室内温水プールを使用し、障害を持った人達と水泳を通して直接触れ合うことにより、他者への共感、思いやりを育てる。		
実践内容	<p>1 パラリンピックのメダリストである河合純一氏から「ゆめへの努力は今しかない」と題し、体育系生徒に人生及び競技に対する心構え等を講演いただいた。</p> <p>2 河合純一氏と猪飼聡氏による水泳交流会を実施した。京都府立盲学校の生徒3名、中丹支援学校の生徒4名、舞鶴支援学校の生徒2名と本校の水泳部、陸上競技部及びスポーツ総合専攻の希望者あわせて合計19名が参加した。</p>		
実施上の留意点等	<p>1 水泳交流会での緊急体制を整えた。</p> <p>(1)養護教諭の配置 (2)保険への加入 (3)教員の配置</p>		
主な成果 (分析結果)	<p>1 生徒感想文(抜粋)</p> <p>(1)目が見えないことで、どうすればいいのかを考えるから、人よりも頭を使っているし、それは別にかわいそうなことじゃないと思いました。どんな人でも住みやすい町を作らないとみんなが幸せに暮らせないと思いました。障害とはその人が持っているものじゃなくて、社会が作り出していることがわかりました。だから、私たちの考え方が変われば障害のある方も幸せに生きられるとわかりました。</p> <p>(2)大会に対する目標を持ち、その日程を調べてその日までに何をしなけ</p>		

	<p>ればいけないのかを考えている人が勝つ。逆に何も考えないでただ目標と口にしていただけの人は勝てるわけがない。と改めて考えさせられました。障害があってもなくても、スポーツに対する愛や熱意は変わらないし、高い目標を持って頑張っていることを知りました。</p> <p>(3) 講演を聴いて、一人で苦しい時に一緒に乗り越えてくれる仲間を見つけ、河合先生のように夢を夢で終わらせるのではなく、絶対に叶えてやるという気持ちを持ってこれから先頑張っていこうと思いました。</p> <p>(4) 今回の交流会は、支援学校の生徒の皆さんやパラリンピアンの方の河合さんと一緒に水泳をすることができて、とても貴重な時間でした。僕たちは目の見えなくなるゴーグルをつけて泳ぐ体験ができたこと、支援学校との交流では活動をサポートさせていただきました。この交流会の経験を生かして水泳の楽しさを伝えていきたいです。</p>
<p>主な課題等</p>	<p>講演の内容も素晴らしかったし、水泳交流会も盲学校、支援学校の生徒達も楽しくありながら、充実感を得て帰ってもらえた。</p> <p>ただ、講師の先生との連絡や盲学校、支援学校との連絡が遅くなり、いろいろと心配させたり、準備が遅くなったことが大きな課題であった。</p> <p>講演を聴いた生徒達が今後、前向きな気持ちで学校生活や部活動をしてくれることに期待したい。</p>

